

会 議 録

会議の名称	第2回 杵築市行政改革推進委員会
開催日時	令和元年8月30日（金曜日） 午後1時30分から午後4時20分
開催場所	杵築市役所本庁舎 2階 第2会議室
議 題	別紙のとおり
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>議事</p> <p>（1）事業評価について</p> <p>（2）その他</p>	
審 議 内 容	
<p>○総務課長：ただいまより令和元年度の第2回の杵築市行政改革推進委員会を開会する。（欠席者報告 1名欠席）</p> <p>（委員長あいさつ）</p> <p>（1）事業評価について</p> <p>○委員長：次第に沿って（1）事業評価について事務局より説明をお願いします。</p> <p>（配付資料、評価方法について事務局より説明）</p> <p>○総務課係長：1番から順番に協議し、評価の決定をお願いします。</p> <p>なお、第1回の委員会で説明したとおり、次年度（31年度）の予算がないものについては評価対象外としてい</p>	

る。

1 番 新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業

○委 員：政策推進課長は内容見直しになっているが、継続でいいと思う。子宮がん、乳がん検診は大事なことなので。ただ、受診率がすごく低い、女性が知っていて受けないのか、それとも知らないで受けないのか。アンケートをして、わかっていて受けないならそれでいいと思うが、啓蒙が足りないのかあるいは周知が足りないのか、どこかのタイミングで確認をしながら是非継続をしたほうがいいと思う。ただ受診率が低いのは、なぜ受けないのかがよくわからないので是非明らかにしたほうがいいのではないかな、もっと若い人が受けたらいいのではないかなと思う。そういう意味で継続もしくは見直し。

○委 員：事業実績の3年間、その期間にこの対象人数は結構増えているのか。

○総務課係長：対象者は、単純にちょうど20歳の人と40歳の女性なので、たまたまその人口分布なんじゃないかと思う。

○委 員：受けたかどうかはわかるのか。

○総務課係長：わかると思う。クーポン利用だから請求が来る。

○委 員：対象者のうち、受けていない人には再度電話か何かかけるのか。

○総務課係長：事業内容の中に再受診勧奨を行うとあるので、対応をしているようだ。精密検査になった人に対して行うとなっている。

○委 員：市外の医療機関でも受診できるというメリットがあるのに受診率が上がらないのはなぜか、もう1個対策したらいいのではないかな。

○総務課長：テレビで有名人の方が乳がんになったときには啓発されるというのもあるが。

○委員：一時コマーシャルとかそういう啓発コマーシャルを流していた。杵築市で受診率が上がるようにどう工夫をしていくかを考えてもらいたい。

○委員：総務課長も政策推進課長も継続内容見直しだと思うが、コメントの趣旨は同じである。

○総務課長：はい。

○委員：両方とも受診率を上げるために努力しましょうということを言っている。事業そのものは内容を見直していくのか継続か評価書き方はちょっとわからないが、継続ということでもいいと思う。

評価〔継続：継続は妥当であるが、周知が足りないのではないかな。なぜ受診率が低いのかを分析、見直しすること。再勧奨等の工夫も検討すること。〕

2 番 児童等自立支援就農チャレンジ事業

○委員：就農体験者というのは、すべて農業がやりたいという人たちなのか。何を言いたいかというと、定着しない理由がいろいろあると思うが、一つはその農業以外に興味がある人に就農をさせてやってみてというのはたぶん私だったら嫌だなと思う。杵築市そのものに企業が少ないから難しいのかもしれないが、もしできるならば農業以外も間口を広げるということが可能ならそういう見直しっていうものがあるかもしれない。それからここに寄付会社が4社あるが、これたぶん寄付がなくなったらもうこの事業はおしまいじゃないかなと思うので、そこましてくれるのであればその寄付企業のうち杵築にあ

る企業にお願いして就業など農業以外の間口が広げられるのかを見直してほしい。就農体験者がすべて農業に興味を持っているならいいが、そういう面での見直しが考えられる。いずれにしてもこれ継続でいいと思う。ゆくゆくは杵築市の住民が増えるのであれば大変よいこと。お金があるのであれば私はそういう仕掛けは大事なことだと思う。

○委員：私も大賛成である。特に引きこもりの人達。民生委員の人に聞くと、なかなか把握されていない、家族が公表したくないっていうのがあるので、そこを一回福祉推進課か社協など担当に確認して、そしてその支援から始めて、どういうことをやってみたいかというのにつながらないと、施設からだけだったら限られてくると思う。そして1番就農を必要としているのは引きこもりの人達である。そこへんをもうちょっと広げて考えてくれるとありがたい。先ほど委員さんの意見にあったが、農業に絞るのはどうなんだろうと思う。選択肢が増えればいいかなと思う。

○委員：どういう風に宣伝、広報をしているのか。

○総務課係長：そこはおおいた子ども支援ネットっていうところが窓口になっている。

○委員：そこを通じているのか。

○総務課係長：はい。そこに委託している。

○委員：直接杵築市がするっていうことではないのか。

○総務課係長：ここが窓口になって、そういう施設とつながりを持ってやっている。

○委員：そしたら、結局農業を1回経験してみたいなという子どもさんも来ているのか。

○総務課係長：はい。

○委員：その人が体験してみて私はこんなことをしてみたい、なんかこれは無理だなとそこで選択すればいいわけか。

○総務課係長：はい。

○委員：実績を見るとけっこう多い。37名28名30名で受け入れが14社。

○委員：実際はこんな人数じゃないと思う。子ども支援ネットのことであるが、引きこもりの講演会に2回行った。そのときに、そういうところがあるということをその講演を聞いて知った。ということはそこに行っていない人って何の機関を通してそれを知るのかなと、市がどこかで広報して、それだったら読むのは読むと思う、引きこもりであっても。相談窓口について市報のすみっこにちょこっと載せるのではなくて、できたら大きく載せていただきたい。ほんと毎日親子ともども苦しんでいると思う。そういう姿をたくさん見ているので、是非もうちょっと広めにアピールして欲しい。その相談が就農にもつながることもあると思うので。

評価〔継続：定住につなげるため、農業以外にも漁業や寄付企業等就業先の選択肢を広げる検討をすべきである。引きこもり解消への取組にもなると思うが、引きこもりの相談先が分かりにくくPRが必要。〕

3 番 生きがい活動支援通所事業

○委員：継続でいいと思う。

○委員：大田の委託先はないのか。

○総務課係長：確認する。大田で実施しているところがあるかどうか。していなければ原課も課題の中で実施できる事業

所の拡大って書いてあるから意識があるのではと思うが。

○委員：私はやむを得ないとは思う。確かにさきほどの予算の話からすれば、政策推進課長が書いてあるように、やっぱりこの効果っていうのは是非やっぱり数値で難しいのかもしれないけど、効果の確認はしたい。

○委員：それで意味がなければやってもしょうがない。やったらやっただけ意味があるからやろうという、継続でもやっぱりこの効果の実績っていうのがどうなのか。

○委員：1人週1回程度として利用者負担が1000円。だから普通の介護保険を利用していない人がデイを使うときに個人負担が1000円である。

○総務課係長：はい。

○委員：これが必要なのだろうけど、これを週1回行ったときに行ける人は4回行っても、その効果というか費用対効果の検証はしているのか。ただご飯食べて風呂入ってお話しするだけではなくて、来ている人の悩みとか、健康状態とか把握してその人の自立や生活向上を考えているのか。そうじゃないとついている意味がない。

○総務課係長：サービス内容は①～⑧まであって今言ったようなことが入っているようである。生活指導とか日常動作訓練とかも入っている。

○委員：施設の中の職員さんとか介護士さんなんかはこれだけのサービスをみんなにしてあげようと思ったら大変である。介護士さんがたくさんいるところならいいけど、みんないっぱいいいっぱいでやっている。そこのところどういうふうにしたら一人一人がここにきて成果が上がったっていうようなそこまで突き詰めていかないとせっかく

やっている意味がない。

○委員：一般財源でやっている。

○委員：それとまた利用者さんも１０００円出しているのです、なかなかそのところをもうちょっと具体的な取組みをしているといいのと思う。今から６５歳以上の高齢者なんかどんどん増えていくし、１人で生活する人も増える。効果の検証をすることをお願いしたい。

○委員：私もある施設のこと考えたとき、その通常のデイサービスみたいなことをして、さらにそれをあれだけの人数の職員でどのくらいできるかなと考えるととても難しいのだろうなという現実である。一旦アンケートか何かで、その施設の職員と利用者さんに聞いて検証しないと、お金を出したわりには、さっき言っていたようにお風呂に入って、ご飯食べてお話して終わってしまうことになっている可能性もある。

○委員長：利用者数実績は減っていないのか。

○総務課係長：減っていない。

○委員長：減っていないところを見ると、そこそこ満足している。

○委員：とは思う。居て楽しければそれで。

○委員：そういうのもあるが、まあ深刻に自分の体調が悪かったりいろんなことがあれば生活指導とかいろんな健康状態の確認とかをチェックしてくれると思う。行ったときに血圧測ったり相談したり。そのところはちょっと充実してくれればまたいいかなと思う。

○総務課係長：では事業の継続は妥当であるとして意見を付す。

○委員：介護保険を使わないで、これをしてくれるところが増えるといいが。

評価〔継続〕：効果の検証をすべきである。更に効果を高めるため

に、対象者の把握や施設側への周知、サービス内容の見直し等が必要である。]

4 番 定住促進事業の推進

○委員：私は継続。

○総務課係長：はい。

○委員：人口が減っているので、推進すること。

○総務課係長：はい。では継続とする。

評価[継続：事業の継続は妥当である。]

5 番 移住体験事業（旧杵築市を「見て・聞いて・知る」体験ツアー）

○委員：説明にあったように先輩移住者が同行するというのはとても大事だと思う。というのが移住者の人と関わったが、その人が1番きつかったのは地域の中に入るとよそ者扱いされて結構平気で言われるらしい。だから出しゃばらないでくれって言われてつらい思いをしたけど、私は負けなかった言っていた。先輩にそういうことが愚痴として尋ねられて、こういうことをして解決できたよと相談できれば移住しやすいと思う。とてもいい取組だと思う。

○総務課係長：評価としては継続と政策推進課長は拡大になっている。この事業の予算は、ほぼ一般財源である。

○委員：私は継続でいいと思うが、これを使って来る人達っていうのはどこで募集するのか。

○総務課係長：移住者フェアなどである。

○委員：あちこちでしている。

○総務課係長：実績のところで移住者フェアで東京・大阪・福岡各

2回とある。こういうところで来た人に紹介して、もともと移住に興味がある人ばかりがきている訳で、そこで杵築の魅力を売り込むことにより、ちょっと行ってみようかとなるようである。

○委員：その上に県主催っていうのがあるが、ここからはあんまりひっぱって来られないのか。何が言いたいかと言ったら、労力を少なくして、効果を多くしようと思ったらおんぶにだっこで、県がどんとやってくれたらそれに便乗して是非杵築にする。

○委員：やはり自分たちで汗をかかなければとなれば、そのフェアかもしれないが。継続でいいが、課長が言ったように拡大という評価で引っ張ってくるところの強化をしてはどうか。特に県の主催があってその効果で杵築にきた例があるならばそこをもっと強化してもいいのではないかと思う。

評価〔継続：先輩移住者から話を聞けるというのはよい取組であり移住後も相談できる体制があれば、移住しやすい。呼び込み窓口の強化、県主催で効果があるなら、県との連携強化を図り、効果を高めるべきである。〕

6 番 広域連携アンテナショップ運営事業

○委員：福岡県などへのPRは大事。PRするところなくなるが。

○総務課係長：はい。政策推進課長の評価が委員さんの意見にかなり近いコメントになっている。

○総務課長：福岡市長からお声かけいただけるようです。政策推進課長が観光の担当をしていましたので詳しいんですけど、そういう意味でも福岡がここに書いている。

○委員：そういうやっぱ絆をもうちょっと強くして。

○総務課長：はい。

○委員：福岡へは大分県の人もいっぱい行っているし、福岡から大分の交流もたくさんあると。

○総務課係長：アンテナショップは廃止とし、コメントを書きおきたいと思う。

評価〔廃止：店舗は閉店したが、福岡圏域への継続的な特産品販売ルートの確立のため、イベントでのPR等は引き続き必要である。〕

7 番 薬用植物栽培支援事業

○委員：生薬とか漢方とかが見直されて先々薬用栽培これやっぱり広げてもいいのかなっていう先見性はあるのか。農業はだんだん放作放棄地が増えている。それで集落営農しているところでもみんな70歳の人達ばかりである。そういう意味では農作業が軽易作業になるような重量作業じゃないものをやっていかないと農業している面積がどんどん減っていくのではないかと心配である。こういう生薬は、作るの大変なのか。

○総務課係長：作っても有効成分が基準以上含有されていないと買い取らない。単純に作ればいいのもでない。中国などが大量に作っている。価格面では安い。だから国産というブランド的なものになってくる。そういった付加価値つけてやるしかない。

○委員：国産品っていうことに対するブランド力はある。中国のを選ぶか、国産を選ぶかと言われたら、国産を選ぶ。

○委員：キキョウは紫の花が咲く花なのか。

○総務課係長：はい。そうである。でも残念ながらキキョウはちょ

っと厳しいそうである。

○委員：あれは生薬になるのか。

○総務課係長：なる。ただ、厳しいと聞いている。

○委員：私は2つの点で、これは継続可否判断じゃないかなと思っている。継続するかどうかを検討する。1つはもうキキョウがだめならキキョウもやめる。はっきりやめる。もうしない。それから2つの点って言ったのは、1つはこれがいいんじゃないか、あれがいいんじゃないかっていうのを実際にやってみてトライすると大変なことになると思う。私、企業にいて新規事業っていうのはいっぱいやったが99%失敗した。あれがいいんじゃないか、これもいいんじゃないかでそれに使ったお金だけで300億くらい使っている。

○委員：腰を据えてほんとにいけるかどうかっていうのを確認する意味での継続可否判断がいいのではないかなと。それからもう1つ。東京生薬協会がどういう役割をしているのかわからないが、ほかにこういう協会があって例えば杵築市が連携提携できるような協会があるならば、その開拓もやって、そこも通じてじゃあどういう商品があるのかっていうのをきちんと議論したほうがいいのではないか。議論っていうのは立ち止まってとりあえず継続しとこうかじゃなくて、とりあえず止まってやったほうがいいと思って継続可否判断が必要である。内容見直しというよりも、とりあえず凍結。凍結してやめるっていう凍結ではなくて、予算も検討のための予算はいいかもしれないが、事業継続の予算やったらやめたほうがいい。まさに収益対効果。

○委員：4年目くらいか。

○総務課係長：そうである。東京生薬協会との連携協定がほぼそれである。委託料が４００万かかっているがそことの契約である。

○委員：そこも４００万？

○総務課係長：はい。そうである。

○委員：高い。

○総務課係長：そこだけではないが、ほぼここ。あとは圃場の管理の委託料とかの費用がある。

○総務課係長：これが今年まで。

○委員：先が見えないのであれば。

○総務課係長：今年までだからそれこそ今また再度検討すべきである。継続なのかほかを探すかとかまさに今。

○委員：そのほうがいいと思う。失礼かもしれないが、なんか将来性ないような気がする。やっている人は大変なので、だからむやみに止めるといふわけにはいかないのだろう。でも利益が上がらないとやっている人もあとあと大変である。

○総務課係長：休止という評価でいいか。

○委員：凍結。

○委員：要はストップしましょうという。廃止ではない。

○総務課係長：凍結という評価項目がない。内容見直しとし、コメントの中に今の意見を記載する。

評価〔内容見直し：拡大できるような先見のある事業なのか、利益が上がるのか具体的な販路の検討など立ち止まって議論すべきである。見直しのための予算ならよいが、将来性があるかの判断がつくまで事業は凍結すべき。〕

８番 世界農業遺産活用推進事業

- 委員：米のブランド化を杵築ブランド強化推進事業と統合して、この事業は廃止していいと思う。七島イを見ると栽培面積無いので、これはもう廃止。
- 総務課係長：負担金は発生する。
- 委員：負担金を払わないといけないのか。
- 総務課係長：世界農業遺産の事務局がある。
- 委員：そういうことか。
- 委員：それならその分はなんか使いたい。
- 総務課係長：せっかくあるのに活かされてない。
- 委員：そういうことか。
- 委員：それなら簡単に言えない。ただ、そのアイデアがない。
- 総務課係長：60万円以上の事業費に対して1／2補助である。
しかも世界農業遺産のクヌギとため池などの縛りがあると思う。なんでもできるわけではない。
- 委員：ため池とクヌギで何するのか。
- 委員：クヌギで炭を作る。クヌギの炭はいいらしい。
- 委員：簡単に廃止とは言えない。
- 委員：そういうことか。負担金出さなきゃならない。でも七島イはこの中から消してもいいと思う。
- 総務課係長：はい。
- 委員：七島イに代わるのが杵築にあるか。
- 総務課係長：七島イは、教育分野に生かそうとしている。
- 委員：ど〜んとテレビを見ていると七島イでなんかいろいろ工作など作ったとか。
- 委員：昔は草履を作っていた。藁草履よりも七島イで作った草履のほうが長持ちするそうである。
- 総務課係長：事業効果に記載があるが、世界農業遺産を農業、観光、教育に活かす。

- 委員：観光、教育、もうそれしかない。
- 総務課係長：せっかく事務局があるから、生かすとすれば、これらの分野で活かしていきましょうと。
- 委員：そういうのも内容見直しになるのか。
- 総務課係長：はい。七島イは廃止ということですから。
- 委員：国東半島。半島って言っても杵築じゃなくて国東のほう
が七島イは昔から栽培が盛んである。杵築も盛んでした
けど。そういう品種がだんだん改良されてきている。
- 総務課係長：最後はトヨミドリといういい品種ができていてという
のを聞いた。
- 総務課係長：教育関係に活かしていくというコメントを付す。
- 評価〔内容見直し：米ブランド化支援事業は、杵築ブランド事業で
実施する。県への負担金は払っていかねばならないの
で、七島イは観光、教育分野に活かす方法を検討する必要がある。〕**

９番 杵築ブランド強化推進事業

- 委員：けっこう売れているのか。
- 総務課係長：ふるさと納税の返礼品などで、有効に活用されている。フェアとか単発でなく継続的に、例えば紀伊国屋に
定番として置いてもらうとか、出口戦略がちょっと今滞
っていたのでそれをしようという動きが出ている。あ
と、市内のどこで食べられるのかという観光客もいるの
で、観光客にも広めていく。
- 委員：紀伊国屋さんで１４、１７品目と増えているが紀伊国屋
さんが選んだ商品だけ置かせてもらえるのか。杵築の全
部１７品目を置くってことではないのか。
- 総務課係長：全部ではない。

- 委 員：紀伊国屋さんが売れるようなものを置いてくれている。
- 総務課長：季節品もある。
- 委 員：50品目もなるのか。
- 総務課長：そうである。
- 総務課長：「まち・ひと・しごと創生事業」の中の目標値がたぶん50くらいだと思う。
- 総務課係長：今、44ある。
- 委 員：44品目中の17。
- 委 員：これは継続でいいと思うが、販路拡大の時に話が出た、金子事務所から地域商社にシフトしていると言っているが、それは強化になると思っているのか。それとも金子事務所と地域商社を競わせて悪かったら切るぞというくらいに働かしてやったほうがいいのか、それとも地域商社一本にするのか。
- 総務課係長：金子は、首都圏に強いそうである。だからそこを一旦切ると地域商社がそこを補完できればいいが難しいようだ。
- 委 員：補完できない可能性もある。
- 総務課係長：いきなり切ると、そのつながりがなくなるかもしれない。
- 委 員：そういう意味では、これたぶん数量で定量的に売上として出てくるはずである。
- 総務課係長：はい。
- 委 員：競わせたほうがいいのではないかと思う。内容的に継続であるが、要は商社をうまく使っていくと、民間委託のところに、連携の強化って書いてある。連携強化しながらこの金子事務所をうまく使って、たぶん1社だったらあぐらをかいてしまう。

○総務課係長：はい。

○総務課長：まさにおっしゃるとおりで、金子事務所のお世話になっているが、独り舞台なので地域商社と連携強化して刺激し合うという思いもあると思う。

○委員：是非そこは強化していただきたい。

評価〔継続：継続は妥当であるが、地域商社へのシフトが強化につながるように、１社のみに任せるのではなく商社等を競わせながら効果を高めていく必要がある。〕

10番 守江湾干潟再生事業

○委員：今、守江湾の貝掘りはできるのか。

○総務課係長：できない。貝を保護しているところには、いる。

○総務課長：エイが口でガリガリやってあとツメタガイという渦巻貝みたいなのが貝を溶かしてで食べてしまう。２種類が食害の影響である。

○委員：それは駆除しているのか。

○総務課長：している。漁協の人が網を引いてエイを取って食害対策と言ってエイを取っているが、それでも追いつかない。

○総務課係長：貝を保護している網の外は食べられてしまう。

○委員：竹を立てたりいろいろしているが、なかなか定着しない。

○委員：昔一時期千葉県に住んでいましたけど、東京から貝掘りのときには道路がもう渋滞。駐車場が２時間待ちとか。

○委員：一時期２１３号線も、貝掘りで渋滞していた。

○委員：是非継続で、その有効な方法とかないのか。ここに書いてあるケアシェルとか被覆網。

○委員：どっちがいいとかはわからないのか。

○総務課長：ケアシェルで育て、被覆網でさらに大きくして定着させるということである。

○委員：これは専門家が入るのか。

○総務課長：市役所に漁業の関係の技師職員が1人いて、研究を兼ねている。

○委員：県の職員か。

○総務課長：県職のOBである。

○委員：その割には効果が出ない。その人たたいてもしょうがないが。

○総務課係長：回復はしてきているそう。

○委員：是非もっと拡大じゃないが、早めにやってほしい。もったいない。

○総務課係長：総務課長もやるなら一気に増やした方がいいと同じことを言っている。今は少しずつで、なかなか増えない。

○委員：中津の干潟が一時取れなくなっって今はもうだいぶ回復している。

○総務課係長：評価は、拡大でいいか。

○委員：漁業者の方としっかり連携をとって、育てていくっていう気持ちを持たせないと、自分たちの生活がかかっているから小さいうちに採るのもわかるが、育てなければ生産も上がらない。

評価〔継続：漁業者と連携し、まずは、採ることよりも育てることに集中して、早急な回復が必要である。〕

11番 栽培漁業促進事業

○委員：毎年、50万匹とか書いてあるが、増えているのか。少しずつ減っている？増えている？

○総務課係長：実績に書いてあるとおりで、だいたい一緒ぐらいである。平成30年度にアワビがないのは赤潮で撒けなかっただけで、撒く計画はあった。ちなみに別府湾、日出とか別府とか国東、姫島は、みんな撒いている。杵築市だけ撒いているわけじゃなくてみんな撒いている。単費なので撒かない選択肢もある。

○委員：漁業者ももうだんだん減ってきている。

○総務課係長：はい。

○委員：生活していくのが難しくなったのかもしれない。魚がとれない。船は燃料費も高いし維持費もだいぶかかる。

○総務課係長：あと、別の資料によると、撒いたらやっぱ当然食べられてしまう。車エビの話であるが、どれくらい撒いた分取れるのかを調査した結果、10%だそう。ただこの数字は、多い、いいほうであるとのこと。これだけ回収できるなら、撒く適地であるとのことである。

○委員：じゃあやりがいがあるのか。

○総務課係長：やりがいはある。10%の効果があって、その数字でもって適地であると判断できるそうである。

○委員：一般財源だけ？

○総務課係長：一般財源だけである。900万円。

○委員：これは継続でしょう。策がないから知恵が。やらざるを得ないでしょう。継続で。

評価〔継続：事業の効果測定が難しいが資源回復と経営安定の観点から継続は妥当である〕

12番 創業支援事業

○委員：冷たい言い方かもしれないが、もしもこの補助金がなかったら創業はしていないのか。

- 総務課係長：いや、後押しはしていると思う。
- 委 員：後押しはしている。
- 総務課係長：例えば、杵築地域は家賃が高いから開業しにくいってというのが課題としてあがっている中で、人が集まらない周辺部で開業するよりは市役所周辺でやりたいってなったときに家賃が高いが補助金があるので、検討できるようになる。
- 委 員：定着率はどうか。
- 総務課係長：平成２９年７件のうち１個残念ながらやめている。
３０年はやめてない。平成２８年は１１件あって、やめたのは２件。２７年は５件あってどこもまだやめていない。
- 委 員：定着はいい。
- 委 員：やる気があれば、補助金がなくてもやると思ったし、それともう一つは定着していないんだったらあんまり意味がないんじゃないかなと思ったけど、けっこう定着している。
- 委 員：多少効果ありと考えていいだろう。
- 総務課係長：効果はプライスレスなところがある。事業者が増えるということは、空き店舗がなくなるとか、活気が生まれるとか金が動くとかそれを言い出したらきりが無い。
- 委 員：でもまあなんかさみしいような気がする。
- 総務課係長：おっしゃるとおり。確かに支援して開くところがあれば閉めるところも多いので。
- 委 員：どういうふうに募集しているのか。商工会が募集してやっているのか。補助金が増えていくので市としてはあまり増やしたくないというのはあるか。
- 総務課係長：これは地域活力創出基金で行っており単費はあまり

出していない。

○総務課長：これはもともと事業主体として商工会も一緒にやっている。商工会のネットワークで広げていると思う。連携して進めている。

○委員：外国人創業者はいるか。時々海外に行くと、日本人のお店に行くことがある。だから同じように杵築にそういうやる気のある外国人がいたら融資してもらえるのではないかなと。商工会が募集の枠を広げて、なかなか難しいと思うが、ただ事業としては継続でいいと思う。

評価〔継続：定着率は高いようなので効果は出ていると考えられる。今後も定着率を維持し、商工会との連携や外国人でも支援できるようなサポート体制の充実が必要である。〕

13番 観光振興事業

○委員：ここに関係するかわからないが、杵築に観光に行くと、何が足りないかって言ったら申し訳ないけど、泊まる場所がない。ないから来ても、観光して夕方になったら帰る。食べる場所があって泊まれる場所があったら、まだ観光が発展する余地があるんじゃないかと思う。そうとう厳しい要望であるが。

○総務課長：もちろんそういうのを目指して事業としてはいろいろ目論んでいるところではある。

○委員：そうなのか。

○委員：お金がないのに悪いが、あそこの魚町のところはどうなっているのか。

○総務課長：今そのこと言った。まだ事業としては検討中である。検討も実現を目指してどうしたらいいかって具体的にやっている。

- 委員：そうならいい。ただ、いつもこの問題でひっかかるのは、隣が別府市で、そうすると温泉地、観光地はもう別府だから、泊まるのはどうしても別府になる。
- 委員：住吉浜では観光客ではなく、学校の研修とか課外授業かなんかで来るみたいである。高校生か、中学生かどこから来たのか住吉浜から歩いてきていた。５月ぐらいに。だから研修できているのかなと思った。
- 総務課係長：それはたぶん合宿とかに補助金出している事業があるので、そういうのを利用して住吉浜に泊まったり、上村の郷に泊まったり、その合宿で来てくれた人達だと思う。
- 総務課係長：この観光振興事業は、単費である。ただ、これをやめると観光パンフレットが全部なくなる。
- 委員：やめなくていい。
- 総務課係長：この事業は、パンフレット代とか、宣伝代とかそういうものである。あと令和元年度に工事費が増えているのは、これは轟地蔵の駐車場の整備代である。
- 委員：友達が着物の和楽庵にいるが、確かにお客さん多いと言っていた。外国の方も含めて。たださっきと同じ意見であるが、泊まる場所がなかなかないと言っていた。
- 評価〔継続：宿泊施設や飲食店が少ないという課題はあるが、県内外への効果的な広報宣伝活動を推進し、観光客や観光消費の増加を図る必要がある。〕

14番 横岳自然公園費

- 委員：意味が分からなかったところがあるが、指定管理料の算定額と直営の収支差額がないと言っていたが、一方、人件費を含めば毎年８００万円の赤字だとなっている。こ

れは結局のところ、赤字だから指定管理を受ける企業がない、８００万円の赤字がでるからということか。結局何が言いたいかと言え、最初は、差がないなら、指定管理にすればいいと思った。ただ、今さっきの話では、いや実は受けるところがないだろうということなので、それだと意味がない。８００万円毎年どうしても赤字になるということだったら、この事業そのものに投資する意味がない。だから私は、内容見直し、ほんとに８００万円出ていくのであれば、廃止じゃないかなと思う。

○総務課係長：はい。８００万円出ていっている。人件費を入れると結局人件費の８００万円分、毎年８００万円赤字になる。

○委員：ということは、この事業を進めることの意味が８００万円の赤字を出してもそれ以上の何か付加価値があるっていうことがない限りはバランスしないと思う。

○総務課係長：はい。

○委員：私はそのバランスは正直今の中ではわからない。このバランスをやっぱり考えて、１、２年のうちにはどうするかっていうのを決めるぐらいの覚悟でのぞまないと。８００万円出して意味があるのか。私はここに、何回か行っている。いいところである。何回も行っていて、いいところなので残したいなと思うけど、でもこれだけ苦しい苦しい財政の中で８００万円以上の意味が果たして何なのか。いろいろ石ころがあって、あともものすごくきれいで、楽しかったけど、それで８００万円赤字お願いすると言えるのか。市でやっぱり考えて、そこは理屈だけである。マイナス８００万円に変わるプラスの理屈がな

いとありえない。

○委 員：人件費は、施設長さん一人なのか。

○総務課係長：施設長とあと臨時職員である。

○総務課長：6人。

○委 員：6人も。

○総務課長：日替わりで泊まったりするので、嘱託員2名と臨時4名である。

○委 員：冬場は少なくなるのか。

○総務課長：はい。

○委 員：冬場に何かしないといけない。契約を半年にするとか。

○総務課係長：臨時職員の6人のうち2人は宿泊があった場合の夜間対応などであり、結局冬場は宿泊がないので来てない。

○委 員：管理人は毎日いるのか。

○総務課係長：はい。基本的には出勤している。火・木が休み。火曜は休館である。皆さん草刈りから鹿の飼育からログハウスの修繕など1人何役もしてくれているとのことである。

○委 員：それとあそこに食堂があるが。

○総務課係長：はい。夢のぼり。

○委 員：夢のぼりと連携できれば、お料理おいしいから。宿泊して夢のぼりさんでお食事したことがある。

○総務課係長：800万円分利用者を増やそうとすると、今が400万円なので利用者を3倍にしないといけない。

○委 員：そしたらやっぱり1、2年じゃだめでしょうから、再生計画とか作って、それで何年でその800万円を元に戻すような計画が立てられるか、それができなかつたら、いや金額に変えられない何かがあるとか。

○総務課係長：はい。

○委員：何かあるとは思えないが、そこをやっぱりやらないとだめだなと思ったらやっぱり勇気は必要じゃないかなと。

○総務課係長：はい。

○委員：この前森林の関係で林業の方がイベントをでやっていた。

○総務課係長：はい。空中テントと言って木と木の間に。

○委員：そういう方たちが増えてくれたら、利用率が上がるかもしれない。

○総務課係長：横岳の上の公園で年に1回するお祭りがある。これは大田の人達、皆一つのよりどころということがあるので、お金と関係ない何かと言えばそれはあるかもしれない。あそこをどうにかしたいという熱い気持ちはみんながあるから横岳でお祭りをして、地域を盛り上げている。経営とは別であるが、そういう意味での価値はある。

○委員：だから今そういうふうに、なんかイベントをしてその使用料をもらったりして、どうにかしないと毎年800万円を無駄になるので。冬場になんかイベントをね。今入りが少ないから。

○委員：それにつなげるようにお願いします。

評価〔内容見直し：金額では表せない効果もあると思うが、毎年800万円の赤字を解消するための再生計画を作成する必要がある。赤字を解消できる対策があるのか1～2年で判断し、結果によっては廃止も考えるべきである。〕

15番 児童学習状況調査事業

○総務課係長：これは散々この委員会で内容見直しを度々指摘した

結果とてもよくなっている。

○委員：廃止になったか。

○総務課係長：30年度から3年生を廃止して、実施のタイミングを変えた。評価は継続でいいか。

○委員：はい。

評価〔継続：今後も効果的、効率的な実施に努めること〕

16番 男女共同参画推進事業

○委員：実施方法を工夫しながら、進めること。

評価〔継続：実施方法等の工夫をし、有効的な事業推進に努めること。〕

17番 コミュニティバス運行事業

○総務課係長：昨年の評価としては内容見直しであった。委員さんから民間の送迎者との連携がうまくできないかという話があったが、それはいわゆる白タク行為になるとのことである。

○委員：そうなるのか。

○総務課係長：例えば病院だったら、病院の患者さんを自宅からここだけ運ぶというのが精いっぱいだと。ほかに行ったり、料金取ったりしたら、白タク行為である。だから委員さんの意見の実現は難しいと。なお、コミュニティバスは毎年コースを変えたり見直しをしている。

○委員：継続でよい。

評価〔継続：効率的、有効的な運行を図りつつ、継続。〕

18番 乗合タクシー事業

○特になし、継続。

評価〔継続：事業の継続は妥当である。〕

19番 水道施設第1次拡張整備事業

○委員：この事業は、投資が大きいから絶対に無駄にならないようにしてほしい。時間をかけてでもじっくりやるべきである。前回のこの話を聞くと最初にやっていたらわかったのについてというような感じがすごくした。やっぱりちゃんと事前の検討をやって無駄にお金の投資にならないようにじっくり検討してほしいと思う。市民としての切ない願い。

○総務課係長：はい。

評価〔継続：投資額が大きいので無駄な投資にならないように時間はかかっても事前の検討をしっかりと議論すること。〕

20番 シティマネージャー事業

○委員：この人はどういう頻度でこちらに来ているのか。

○総務課長：年間113日。100日以上である。

○委員：113日。

○委員：月に平均すると。

○総務課長：月に2回程度。

○委員：月2回で1回来た時には、何日いるのか。

○総務課長：2日。1泊か2泊くらいしている。2、3日はいる。
事業の相談内容による。

○委員：この日本総合研究所から派遣なのか。

○総務課長：はい。

○委員：ここが私は1番ひっかかる。この事業が1番気になった。その今説明されたように月2回で1回来て2、3日で、ここの事業に取り組んでいる人たちの助けになって

いるのかどうか。なっていなかったら、これももう確かに国から半分お金をもらっているかもしれないが、それでも300万円は出ているので。もう一つ思ったのが、この人じゃなくて市の職員が300万円じゃないけど、専従でこの人と同じようなことをやったのと相当差があるのかどうか。差がなければこのシティマネージャー事業というのをやめて市の直営社員が兼務でやったほうがいいと思う。お金がかかって効果がないのではないかなって気がした。2日来て話してこうだよでしょ。もしほんとに効果があるなら使いまくって、もう二度と来たくないってくらいに使いまくるのが普通である。企業の感覚とかで言ったらそうなる。お金がかかっているのだからお前成果出せよって。成果保証をさせなきゃいけないと思う。こういう人の場合は。毎年この項目について私はどういう成果を出すということをちゃんと出してもらって、それを評価する。1個1個の事業で私はこういうことを成果出すって。それをやっぱりしかるべき市長なり課が評価をして、約束通りの評価を出していると、要はコミットメントとアセスメントという感じである。約束と評価というぐらいにしないと、なんとなく無駄にお金を使っているような気がする。市としては厳しく、立場を縮小という意味ではなくて、内容をきちんと見てほしいと思う。ほんとに意味があるのならば逆にどんどんやったらいいと思う。1個1個市長が評価して、是非約束を取り付けてほしい。これは市長直属なのか。

○総務課長：そうである。

○委員：ということは市長がやっぱり指示を出すのか。

○総務課長：事業のところはそれぞれ、政策推進、福祉、秘書、農

林、商工観光など、各課で相談をしてそれを成果とするためにこういうしたというようなことはこの表に書いている。結構みんな言いたい放題言っている。シティマネージャーに相談しながらやっている。

○委員：300万円もったいないなと思ったのだが。

○総務課長：私も前の秘書広報課にいたときは、ケーブルテレビの光化の相談をして、お金をかけない方法をもっと調べないと圧迫するからということで助言してもらった。例えばそういうこと。

○委員：なるほど。継続でもいいが、是非評価をお願いする。

評価〔継続：継続は妥当であるが、報酬に見合った成果を出せているか成果を約束した上で責任を果たしているか評価する仕組みを作るべきである。評価成果保証が必要である。〕

21番 ふるさと杵築応援寄付金（ふるさと納税）の充実

○委員：まさに拡大を望むところである。

評価〔拡大：寄附金の増額を図り、より効率的かつ戦略的な事業の展開を行う必要がある。〕

22番 学生チャレンジ事業

○委員：補助対象になっている塾は、普通の塾じゃないのか。

○総務課係長：塾ではあるが、塾生に限らず、事業目的が学生向けのイベント実施だから対象となっている。

○委員：対象は学生か。

○総務課係長：学生とか若者とか。

○委員：何人くらいなのか。

○総務課係長：そこはまた確認して報告をする。

○委員：山香にいて私は数年経つが、東山香ふるさとマップっていうのを東山香の子どもたちが作成した。ほかにも子ども会があったりするがそういうのも対象なのか。

○総務課係長：それも確認する。次回の委員会で報告する。

○委員：選考基準。

○総務課係長：これは保留で次回追加資料を用意する。

評価〔保留〕

23番 地域おこし協力隊設置事業

○委員：がんばってください。

○委員：がんばって拡大。

評価〔拡大：地域の魅力開発や定住促進で成果が認められる。引き続き、協力隊活動を推進し、退任後の定住を目指すべきである。〕

（２）その他

特になし